

労務研修会を開催

河北支部 会員ら70人参加



足立副支部長

大ト協河北支部(河合良紀支部長)は10月24日、大阪市淀川区の新大阪ワシントンホテルプラザで、労務問題研修会を開催、会員ら70人が参加した。

冒頭、足立茂蔵副支部長(労務対策委員長、阪神石油運送)は「当支部では、労務問題を健康と労務の2分野に分けて、交互に研修していくが、最近は、監督署の調査や監査が頻繁に行われており、今年は両方とも行うこととした。当社でも51歳のドライバーが運転中に頭部動脈破裂を起こし、意識が無くなる」と



大ト協河北支部の労務問題研修会

いう事故があった。健康管理は不可欠だ」などとあいさつした。研修会では、健康管理面を「急増する健康起因事故! 大事故の背景に健康問題」と題し、NPO法人ヘルスケアネットワークの作

本貞子副理事長が説明。労務関係では、中小企業診断士の小山雅敬氏が「運送業の生産性向上とコンプライアンス、合理的な賃金体系と会社を守る規程の要点」をテーマに講演した。